

金光明最勝王経にみる医学

杉田 暉道

「現代に生きる伝統科学」が栗山茂久座長、10「伝統医学いかにあるべきかー針灸医学の立場から」が藤本蓮風・木下伸一座長で行なわれた。さらにオーラル・ポスターの一般講演のほか、NHKのBSフォーラム公開シンポジウム「人にやさしい医療を求めて」が小出五郎NHK解説委員の司会で開かれた。

二十一日は特別講演が山田慶兒氏「長命法と錬金術」、西野皓三氏「氣と呼吸法について（一般公開）」があった。ワークショップは11「医療人類学とアジア伝統医学ー養生文化と環境医学」が竹村真一座長、12「伝統医学の脈診を科学するー東西の医学の見地から」がN.C.・上馬場和夫座長、13「ターミナルケアとアジア伝統医学」が上野圭一座長、14「ライフスタイルとアジア伝統医学」が幡井勉・K. Krishna 座長で各々活発に討論された。またポスター・オーラルの各セッションでは一般講演があった。

これまで当大会はどちらかというところ、南アジア・西アジアのアールヴェーダ・ユナニが主体であった。そこで近年、注目されている東アジアの中国系からも研究発表を求める目的で、今大会は日本で開催された。中国の大陸と台湾から政府衛生機関の要人も出席、全体で世界二十の国と地域から参加・発表があり、出席者は約千名に達した。各伝統医学が一堂に会した点で、比較医学史の面においても意義深い学術大会であった。

(真柳 誠)

本経は古代インドにおいて三世紀頃に成立したと考えられ、日本では奈良時代に広く読誦された。それは『金光明最勝王経』巻第六、四天王護国品第一二に「汝等若しよくこの経を護持せば経力によるが故に、よくもろもろの苦、怨、賊、饑饉およびもろもろの疾疫を除かん。是故に汝等四衆、この経王を受持し読誦するものを見ては、またまさに勸心に共に守護を加えて、為に衰脳を除き、安樂を施与すべし」と広大な功德が述べられているからである。

医療面については除病品第二四に「医人は四時（春時、夏、秋時、冬時）を解し、またその六節（華時、熱際、雨際、秋際、寒時、氷雪）を知り、身七界（身体の七種類の組織要素）を明閑（あきらかにする）にして薬を食するにたがうなからしむ。いわく味界、血、肉、骨および髓、脳なり。《入門アーユルヴェーダ》の四七頁の内容と一致病の中に入る時は、その療すべきや否やを知る。病に四種の別あり、いわく風（ヴァータの障害）、熱（ピッタの障害）、痰瘰（カパの障害）および総集（ヴァータ、ピッタ、カパの三つの病素の障害）の病《入門アーユルヴェー

エーダ』のP、三三―三四の内容と一致、発動の時を知るべし。春には痰癆動き、夏の内には風病を生じ、秋時には黃熱増し、冬節には三俱に起る。〔『スシュルタ本集』第一卷P、一六の内容と同じ〕春には洪、熱、辛を食し、夏には膩、熱、鹹、醋、秋時には冷、甜、膩、冬には酸、洪、膩、甜、この四時の中において服薬および飲食、若しかくの如き味によらば、衆病よつて生ずることなからん。〔『アーユルヴェーダ』P、三五〇―三五三の内容と同じ〕。食後の病は廢により、食消の時は熱により、消後は風によりて起こる。時に準じて病を識るべし。すでに病の源を識りおわれば、病に隨いて薬を設け、たとい状殊（病状）を患うとも先づその本を療すべし。風病は油膩を服し、患熱は利（肛門から出す）を良となす。廢病は変吐（吐く）すべし。△この治療法は『入門アーユルヴェーダ』の予防と治病のための排出療法P、九四に一致、總集には三薬を須う。風熱癆俱にある。これを名づけて總集となす。病の起こる時を知るといへども、その本性を觀るべし。かくの如く觀知しおわりて時にしたがいて薬を授くれれば飲食と薬とたがうことなけん。是を善医者と名づく。

また八術を知るべし、諸の医方を總攝（まとめる）す。ここにおいて若し名閑（明らか）ならば衆生の病を療すべし。いわく針刺（首より上部の病氣）、傷破（一般外科）、身疾（内科）並に鬼神（精神病学）、悪毒（毒物学）及び孩童（小児科）、年を延べ（健康増進）、氣力を増す（強精法）。へ八術はアーユルヴェーダの分類法である。

先づ彼の形色、語言及び性行を觀、然して後にその夢を問ひ、風、熱、廢の殊を知る。乾瘦にして頭髮少く、其心定住（落着き）無く語多くして飛行を夢む。この人はこれ風性なり。少年にして白髪を生じ、汗多く及び臍（いかり）多く、聡明にして夢を見る。この人これ熱性なり。心定り身平整し慮審らかにして（考え方がちみつである）頭に津膩（液体）あり、夢に水白物を見れば、これは廢性なりと知るべし。〔ヴァータ、ピッタ、カパの體質の記述は『現代に生きるアーユルヴェーダ』P、三〇―三三に一致しているものがかなりある。〕とある。すなわち除病品にみる医療内容は、1) 身体の七種類の組織要素を熟知しなければいけない。2) 風、火、水、の三つの病素の障害による病氣および季節との關係を述べ、3) 季節の違いに應じて撰取する飲食物の味を上手に変化させること、4) 三つの病素と個人の體質との關係を述べており、まさにアーユルヴェーダのもつとも重要な理論と生活方法を簡潔に記している。

（平成六年六月例会）

やみの医術―鳩鳥―実在から伝説へ

真柳 誠

鳩鳥という毒鳥が古代・中世の中国文献にみえる。しかし近代以降、毒性のある鳥は知られておらず、鳩鳥も空想の産物と考えられてきた。ところが『サイエンス』92年12月30日